

幼児期の保育の充実と支援をつなぐ在り方を探る

— 個別の指導計画作成とその活用に向けて —

幼児教育センター指導主事研究会議

小林 朝香

青柳 道子

根津 牧子

I 主題設定の理由

平成 16・17 年度、川崎市は文部科学省の地域指定研究を受け、テーマを「幼稚園等における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究～保育の充実と支援をつなぎ地域をつくる～」とし、関係機関と協働した取組を進め、その成果について報告書を作成した。本指導主事研究会議では、報告書から、一人一人のニーズに応じた支援の充実を図ること、幼児の発達の連続性から支援をつなぐことの必要性を重視し、個別の指導計画書式と用語例の作成が必要であると考えた。

そこで、次のように研究主題を設定した。

研究主題	幼児期の保育の充実と支援をつなぐ在り方を探る
	— 個別の指導計画作成とその活用に向けて —

II 研究の内容

1 研究の方法

幼児教育センター研究会

本研究会議の取組方法として、18 年度に初めて公私立幼稚園・保育園の所管課や関係団体に協力を依頼し、幼児教育センター研究会（以下センター研究会とする）を立ち上げて研究を進めてきた。幼稚園・保育園は設置目的や保育時間、保育方法などの点でそれぞれの特性を生かした違いはあるものの、「一人一人のニーズに応じた支援」という点ではお互いに努力を重ねている。この研究が、今後の川崎市の幼児期の特別支援教育の推進をめざしていくことから、今年度は、さらに広く関係団体の協力を得て研究を進めることとした。センター研究会においては、事例を持ち寄り、個別の指導計画書式や用語例の検討を行った。

幼児教育センター指導主事研究会議

(幼児教育センター指導主事)

・ 個別の指導計画用語例等の検討・作成

幼児教育センター研究会

(公私立幼稚園・公私立保育園・幼児教育センター指導主事)

18 年度 ・ 個別の指導計画書式の検討

19 年度 ・ 個別の指導計画書式および用語例の検討

2 個別の指導計画書式について

(1) 個別の指導計画書式の共通理解および、書式内容の修正

センター研究会においては、今年度メンバーが新たに加わったことから、個別の指導計画書式の共通理解を図った。また、指導主事研究会議において出された検討課題についても提案し、話し合いを進め、次のように整理・修正を行った。

検討課題	修正内容 (⇒) とその理由 (●)
年間の指導目標	⇒保育者の願いの欄を設ける。 ●見通しをもったねらいが保育者にも必要である。
記入月日について	⇒項目ごとの記入月日を明記する。 ●子どもの成長の変化や、指導の見通しを明確にもつことができる。
歳児、氏名欄	⇒クラス名を明記する。 ●各学年のクラス数が多い場合を考慮する。
支援の評価 (幼児の様子)	⇒幼児の様子 (支援の評価) とする。 ●保護者とともに、幼児の姿について振り返り、支援の評価につなげる。
備考欄	⇒記入のポイントを示す。 ●いろいろな視点での情報が記入できるようにする。

センター研究会等で話し合われた結果を受け、次のような「個別の指導計画書式」を作成した。

個別の指導計画書式			歳児・クラス名	氏名	所属機関	保育者の願い (月 日)		
<年度当初の幼児の様子> (月 日)								
幼児の様子	<input type="checkbox"/> 生活習慣	<input type="checkbox"/> 遊び			保護者の願い (月 日)			
	<input type="checkbox"/> 運動	<input type="checkbox"/> コミュニケーション						
	<input type="checkbox"/> 集団参加							
期 (月～月)			期 (月～月)			期 (月～月)		
目標 (月 日)	支援の手立て (月 日)	幼児の様子 (支援の評価) (月 日)	目標 (月 日)	支援の手立て (月 日)	幼児の様子 (支援の評価) (月 日)	目標 (月 日)	支援の手立て (月 日)	幼児の様子 (支援の評価) (月 日)
生活習慣								
運動								
遊び								
コミュニケーション								
集団参加								
備考	(月 日)		(月 日)			(月 日)		

(2) 個別の指導計画記入上の留意点及び個別の指導計画記入例

個別の指導計画を立案するに当たっては、指導主事研究会議において、記入のポイントを明記した「記入上の留意点」一覧を示すことで、視点を絞って指導計画を立てることができるのではないかと考えた。そこで、次のようなことに配慮しながら「個別の指導計画記入上の留意点」を作成した。

- ・ 個別の指導計画は、一人一人に即した適切な教育的支援を行うために、指導の目標や支援の手立てについて考える実践上の計画であるため、定期的な修正や見直しを保護者で行うように留意する。
- ・ 目標を立てる際の観点については、幼児の実態に合わせて、ねらいの達成が望まれる欄に記載する。また、ポイントを箇条書きにして明記する。
- ・ 観点については、個の状態に応じて新たに加えたり、該当しない観点については削除したりするなど、柔軟に対応できるようにする。

また、1年間の具体的な指導の流れや、幼児の成長の過程がわかるよう、個別の指導計画書式を用いた「個別の指導計画記入例」も併せて作成することとした。

3 個別の指導計画用語例

センター研究会において、持ち寄られた事例に基づき、本研究会議において、個別の指導計画用語例を作成した。内容については、年度当初の幼児の様子や、保護者の願いなどについての欄の他、生活習慣・運動・遊び・コミュニケーション・集団参加の五つの観点ごとに、目標・支援の手立て・幼児の様子（支援の評価）についてまとめた。また、まとめるに当たっては、「子どもの育ちの過程を考慮する」「類似する内容ごとに示す」などを配慮した。

ここでは、生活習慣の観点から、「年度当初の幼児の様子」「用語例」について一部抜粋を掲載する。

生活習慣 年度当初の幼児の様子

- 身支度
 - ・ 保育者の手助けによって身支度を行う。
 - ・ 周りの子の様子を見ながら、真似て身支度を行おうとする姿が見られる。
- 食事
 - ・ スプーンやフォークを使って食べようとするが、こぼしてしまうことが多い。
 - ・ 準備や片付けは、保育者の援助があると自分でできる。
- 排泄
 - ・ 紙パンツを使用しているが、時間によって保育者がトイレに促していくことで排泄できることもある。
- その他
 - ・ 睡眠のリズムが乱れており、日中の機嫌が不安定である。
 - ・ 裸足のまま戸外に出てしまったり、外靴のまま室内に入ってしまったりする。

生活習慣 用語例

目 標	支援の手立て	幼児の様子（支援の評価）
<p>■身支度</p> <p>◎所持品の始末の方法や手順を覚え、保育者と一緒にしようとする。</p>	<p>◎片付ける場所に、好きなキャラクター一等のシールを貼り、わかりやすくしておく。また言葉や手を添えてモデルを示し、一緒に繰り返し行う。</p> <p>◎子どもの動線に沿って、順番に始末が行えるような環境をつくっていく。</p> <p>◎手順表（絵や写真）を使ったり、保育者も一緒に行ったりしながら一つ一つ丁寧に伝えていくようにする。</p> <p>◎やる気が出るような声をかけていき、できたときにはほめる。</p>	<p>◎本児がわかりやすい場所にしたり、好きなキャラクターを貼ったりしたことで、覚えやすく、自分の持ち物への意識ももちやすかった。</p> <p>◎無駄な動きをすることなく、一連の流れで始末が進められるようになった。時間をかけずに次の活動に移ることができ、抵抗なく身支度を行うことができた。</p> <p>◎保育者が一緒に行うことで理解できるようになってきているが、保育者を頼ってしまう様子が伺える。今後、自分でできる部分が増えていようにかかわり方を工夫していく必要がある。</p>
<p>◎決められた場所で身支度を行う。</p>	<p>◎出した物が分散してしまわないように、支度をする場所を決めて進めていくようにする。（かごなどの利用）</p>	<p>◎物を置いた場所がわからなくなってしまうことが減り、安定して支度が進められるようになってきた。</p>
<p>◎所持品の始末を自分でやろうとする。</p>	<p>◎やる気が出るような言葉をかけながら、できるだけ自分の力でできるように見守る。また、本児と一緒に一つ一つのことができているか確認し、できたことをほめていく。</p>	<p>◎一つ一つの手順を本児と確認しながら進めたことで、先の見通しがわかり自分でやろうとする姿が多く見られるようになった。</p>

4 個別の指導計画の活用に向けて

（1）就園から就学までの流れにおける各資料について

個別の指導計画が、どのような手順で作成されるのか、また、就園前から就学後までの見通しをもった指導が必要であることから、幼児の支援をつなぐ流れが明確になるよう、就園から就学までの流れにおける各資料の活用時期を示した図を作成した。（図1）なお、関係機関との連携については、保護者と連絡を取り合いながら進めることを、配慮事項として記載した。

同時に「就園に向けての幼児の基礎資料となる書式（聴き取り項目）」「就学に向けての引継ぎ記入例」などを資料として作成し、これらの内容がどのように活用されるのか、視覚的に理解できるように配慮し、図1に位置づけた。

ここでは、「就園から就学までの流れと個別の指導計画」と「就学に向けての引継ぎ記入例」の一部を抜粋して掲載する。

①就園から就学までの流れと個別の指導計画

*ゴシックは、本研究で作成した資料

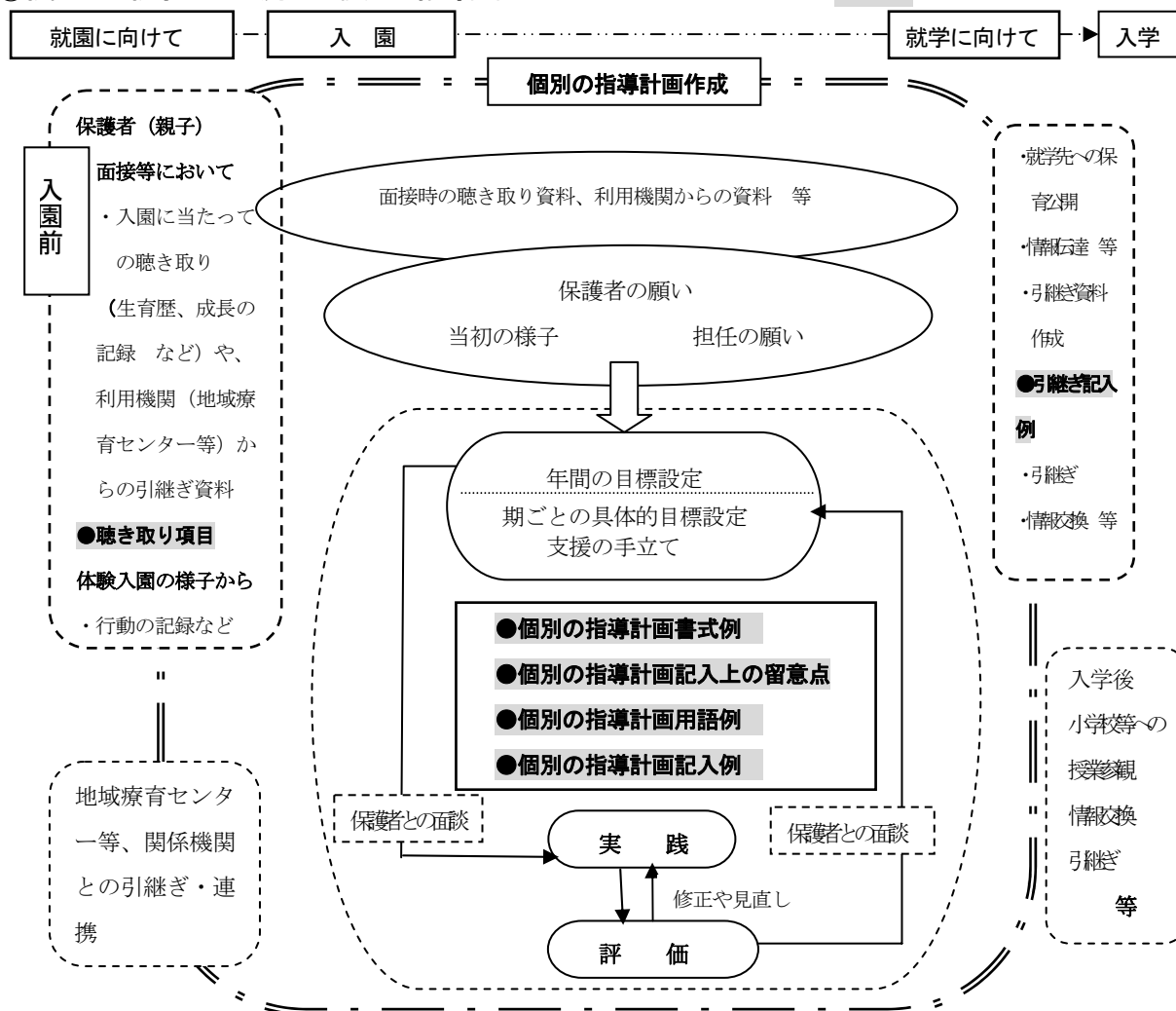


図1 就園から就学までの流れと個別の指導計画

②就学に向けて引継ぎ記入例

<例1 小学校生活上の情報および配慮点>

項目	園での実際の活動場面の様子	小学校生活上の配慮点
移動手段 【園内】 【園外】	室内では独歩で移動している。段差（15cm）や、他人との接触による転倒が考えられる。階段は、ゆっくり（他児の2倍位）のペースであれば一人で可能。	転倒する際に膝をついて倒れることやお尻をつくようにすることが多いので、頭を打つ心配は少ない。膝用のサポーター使用でダメージを軽減。
	遠足は保護者同伴だが、担任と手をつなぎ、ほとんど一人で歩く。通園は、自転車で保護者が送迎、雨天時はバスに乗車して通っていた。	場所と目的による配慮が必要。遠足等の参加方法については、保護者と相談が望ましい。通学は近距離のため、通学路を2～3回確認すればよいと思われる。

保護者 ○○ ○○ 印
担任 ○○ ○○ 印
園長 ○○ ○○ 印

*なお、就学に向けての引継ぎ資料については、個別の指導計画作成同様、保護者とともに幼児の育ちを確認しながら引継ぎに必要な内容を作成し、作成後は保護者に開示し、小学校に引き継ぐようにしましょう。

<例2 園生活の様子>

- * 小学校の担当者に来園していただき、環境も含めて保育者とのかかわり方等を見ていただくのもよいでしょう。
- * 保護者の方には、小学校との連携に向け先生方が来られることを、前もって伝えておきましょう。

幼稚園・保育園で役にたったカードや写真

- 1日の流れを図で示したカード
- 何をしたらよいか具体物を写した写真
 - ・靴を靴箱にしまう・タオルをかける
 - ・弁当の時間（弁当箱の写真）など
 - ・外に行くとき（帽子や、外靴、ブランコの写真など）

* 引継ぎをする時は、園で実際に使用したカードや写真などを
用意するとよいでしょう。

口頭では指示がわかりづらい幼児に、具体物を写真にした
ものなど、実際に使用したものがあれば用意しましょう。

Ⅲ 研究のまとめと今後に向けて

個別の指導計画作成とその活用に向け、2年間の研究成果を「個別の指導計画作成のために（用語例集）」としてまとめた。また、研究を進めてきた中から次のようなことが見えてきた。

○ 保護者との連携

幼児の育ちの流れを円滑につなぎ、就学後も一人一人のニーズに合わせた指導を進めていくためには、教師間の連携にとどまらず、家庭や保護者と連携し、個の育ちをお互いに確認し合いながら進めていくことが大切であることを再確認した。

○ 就園から就学までの流れの中で

幼児の育ちを理解し、その成長をつなげていくためには、個別の指導計画を作成し、保育に当たっていくことが必要である。この育ちの流れは、園内の教職員だけが引継いでいくのではなく、入園前の家庭での育ちから、小学校等への入学以降も引き続き視野に入れながらとらえていくことが必要である。

今後は、川崎市内の幼稚園・保育園にこの「個別の指導計画作成のために（用語例集）」を配付し、その普及方法を検討し活用を図っていくとともに、就学への円滑なつながりに向けた取組についても検討していきたい。

最後に、この研究を進めるに当たりご指導、ご助言をくださいました、滝坂信一先生、研究協力を快くお引き受けいただいた園長先生をはじめ職員の皆様に、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

平成 16・17 年度文部科学省地域指定研究「幼稚園等における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」

【指導助言者】

東京農業大学教授

滝坂 信一

【研究協力園】

なごみ保育園・みぞのくち保育園・市立中丸子保育園・市立日進町保育園

諏訪幼稚園・若竹幼稚園・市立生田幼稚園・市立新城幼稚園